# ３つのエチケット

- ■ 積極的に話し、積極的に聴く
- ■ どのような考えでも歓迎する
- ■ 話は簡潔に、相手の話を否定しない

# グループワークの発表について

■ 各テーブルごとに下記４点を発表していただきます。

①議論した大項目

②選んだ評価項目

③選んだ指標

④指標を選らんだ理由

# デイサービスの評価項目・指標（案）

資料3

| 番号 | 大項目 | テーブル | 評価項目（価値） | 理　由 | 指標（数値化できるデータ）岡山市案 | 留意点 | メ モ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 従事者支援 | ①～④ | 資格取得に向けた支援、継続的な能力開発の実施 | 資格取得の支援体制の充実は、職員のスキル向上に寄与するので、利用者の状態像の維持改善につながる。 | 各事業所における資格取得に係る助成額のうち１件当たりの最大額 | | |
| 2 | | | 専門的ケア習得に向けた外部研修参加への支援 | 職員のスキル向上に寄与するので、利用者の状態像の維持・改善につながる。 | ○研究発表の回数<br>○研修助成金額 | どこまでの研修を評価対象とすべきか<br>（例えば数時間で終わる研修と、一週間で終わる研修を同じ評価すべきなのか） | |
| 3 | | | 職員満足度の確保 | 職員満足度の確保は、職員の体制が整いサービスの安定供給につながる。 | 満足度調査の結果 | | |
| 4 | | | 職員が安心して働ける環境の整備 | 職員が安心して働ける環境の整備は、職員の体制が整いサービスの安定供給につながる | 従業員の平均有給取得率<br>（職歴に応じて決まっている有給の取得率（労基法上の取得推奨率）） | | |
| 5 | 介護技術 | ⑤～⑧ | 状態像の維持改善度<br>（自立に向けた取り組み） | 状態像の維持改善は自立につながるため | ○ADL維持改善率<br>○IADL維持改善率<br>＜計算式＞<br>維持・改善人数／サービスを受けた利用者 | | |
| 6 | | | 加算対象サービス以外の提供 | 加算対象サービス以外のサービスでも、状態像の維持改善につながる | 加算対象サービス以外でで行っているサービスの種類 | 加算対象以外のサービスはどのようなものを評価すべきか<br><br>＜参考：加算対象サービス＞<br>個別機能訓練、入浴介助、栄養改善、口腔機能向上、送迎、若年性認知症、中山間地域等 | |
| 7 | | | 専門的な認知症ケアの提供 | 認知症高齢者へ専門的なケアを提供することは、状態像の維持改善につながる | ○認知症実践研修への参加人数<br>○認知症の調査の件数割合<br>（長谷川式、DASC、浦上式、　等） | 調査票の種類 | |
| 8 | | | 自己評価の実施 | 自己の介護技術の向上は質のよりサービスにつながるため | 内部評価実施人数（キャリア段位における申請者数） | | |
| 9 | | | キャリア段位制度への参加 | 自己の介護技術の向上は質のよりサービスにつながるため | キャリア段位研修会参加人数 | | |
| 10 | | | 利用満足度度調査の実施等による利用者の意見の収集 | 利用者の意見を収集することで、より利用者の状態像に合ったサービスを提供することができる | ○利用者満足度調査の公表率<br>○利用者満足度調査の結果 | | |
| 11 | 事業所の意識の向上 | ⑨～⑫ | 機能訓練指導員について、幅広いニーズの機能訓練に対応しているか。 | 専門職の充実は、職員のスキル向上に寄与するので、利用者の状態像の維持改善につながる。 | 機能訓練指導員について、国家資格の職種数<br>※人数の考え方は、公表されている事業所情報に準じて計算 | | |
| 12 | | | 生活相談員の体制 | 専門職の充実は、職員のスキル向上に寄与するので、利用者の状態像の維持改善につながる。 | 生活相談員のうち、常勤の社会福祉士がいるか、非常勤の社会福祉士がいるか、社会福祉士がいないかの3択<br>※人数の考え方は、公表されている事業所情報に準じて計算 | | |
| 13 | | | 介護職員の体制 | 専門職の充実は、職員のスキル向上に寄与するので、利用者の状態像の維持改善につながる。 | 介護福祉士人数／介護職員数<br>※人数の考え方は、公表されている事業所情報に準じて計算 | | |
| 14 | | | 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師又は准看護師、柔道整復師、あん摩マツサージ指圧師、社会福祉士、介護福祉以外の専門職の配置人数 | 専門職の充実は、職員のスキル向上に寄与するので、利用者の状態像の維持改善につながる。 | 歯科衛生士、管理栄養士、音楽療法士、認知ケア専門士等の職種数 | 他に評価すべき専門職はないか | |
| 15 | | | 実習生の受け入れ | 未来の介護職員の確保はサービスの安定的供給につながり、結果として、利用者の状態像の維持改善につながる。 | ○受け入れ延べ人数／定員<br>○受け入れ日数 | | |
| 16 | | ⑬～⑯ | 利用者がくつろげる環境の整備、事業所全体の雰囲気の快適性への配慮 | 利用者が安心できる空間の確保は、利用者の機能訓練に専念できる環境につながり、利用者の状態像の維持改善につながる | 食堂及び機能訓練室について、併せた面積と利用定員の商の値（指定基準は3平方メートル ×利用定員） | | |
| 17 | | | 状態像の維持改善を図るための機器等の充実 | 様々な機器の充実は状態像の維持改善につながる | ○機能訓練用の機器類及びレクリエーション用の機器の種類<br>○定員数に対する機器の配置数 | | |
| 18 | | | 広報紙の定期的な発行 | 広報誌を通じて、利用者が事業所情報を知ることができ、利用者は状態像に合ったサービス（事業所）を選択することができる | 年間の発行数 | | |
| 19 | | | 事業所情報開示に向けた取組 | 利用者は事業所情報を知ることができ、利用者は状態像に合ったサービス（事業所）を選択することができる | 県が管理する事業所検索HPにおける任意事項の記載数 | 他に適切な指標がないか | |
| 20 | | | 医療機関との連携（急変時、精神科（認知症）、歯科医） | 医療機関との密接な関係は、利用者の安心につながる | 緊急搬送先を把握している利用者の人数 | 他に適切な指標がないか | |
| 21 | 地域住民の意識向上 | ⑰～⑳ | 地域社会との交流（地域行事の参加等） | 地域等との交流は、介護保険制度への理解につながり、結果として在宅生活の環境確保につながる。 | ○地域住民が参加可能な施設内行事の実施回数（／年） | | |
| 22 | | | 地域住民の介護体験やボランティアの積極的な受け入れ | 地域等との交流は、介護保険制度への理解につながり、結果として在宅生活の環境確保につながる。 | 延べ人数／定員 | | |
| 23 | | | 家族会、介護教室の開催 | 地域等との交流は、介護保険制度への理解につながり、結果として在宅生活の環境確保につながる。 | 開催日数 | | |
| 24 | | | 利用者、・家族等との適切なコミュニケーション | 地域等との交流は、介護保険制度への理解につながり、結果として在宅生活の環境確保につながる。 | ○利用者懇談会の開催件数（／年）<br>○家族への意思決定支援件数 | | |

※テーブルの割り振りについては２月７日のものです。

平成２６年２月４日

# 岡山市総合特区デイサービス改善インセンティブ事業説明会

## アンケート

テーブル番号　　事業所名

お忙しい中を説明会にご参加いただき、ありがとうございました。
今後の施策の参考のためにご意見をお聞かせください。

1. デイサービスについて、サービスの質を高める必要はあると思いますか。
   ・大いにある　　・ある　　・あまりない　　・ない

2. 本日の説明会の趣旨は理解できましたか。
   ・大いにできた　　・ほぼできた　　・あまりできなかった　　・できなかった

3. 貴事業所において、主な利用者層が多いのかを教えてください。（複数回答可）
   ・軽度要介護者　　・中度要介護者　　・重度要介護者

4. 貴事業所のサービス提供時間を教えてください。
   ・3時間以上5時間未満　　・5時間以上7時間未満　　・7時間以上9時間未満

5. 貴事業所における利用者の状態像の維持・改善につながる取組みで、他の事業所の目標となるような取組みがあれば、記載してください。（事業所の特色など）

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

6. グループワークで活用した「評価項目・指標」以外に必要だと思う項目や指標があれば記載してください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

7. その他ご意見等がございましたら、ご記入ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

ご協力ありがとうございました。

# 資料5

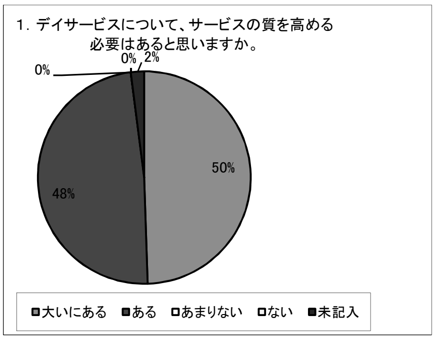
# 説明会アンケート結果及び意見交換とりまとめ結果

岡山市総合特区デイサービス改善インセンティブ事業説明会　アンケート

194人回答
243人参加

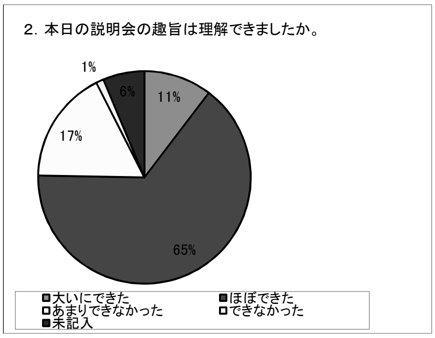
１．デイサービスについて、サービスの質を高める必要はあると思いますか。

| 大いにある | ある | あまりない | ない | 未記入 |
|---|---|---|---|---|
| 96 | 94 | 0 | 0 | 4 |



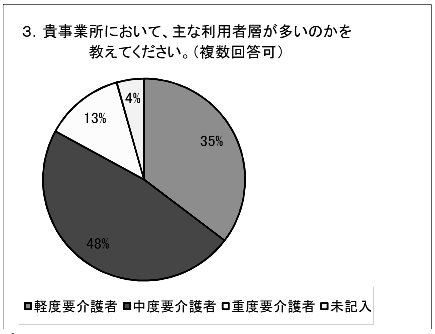

２．本日の説明会の趣旨は理解できましたか。

| 大いにできた | ほぼできた | あまりできなかった | できなかった | 未記入 |
|---|---|---|---|---|
| 18 | 113 | 30 | 2 | 11 |



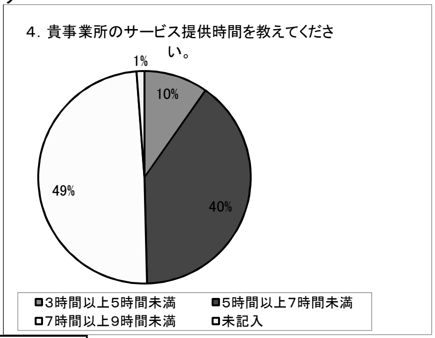

３．貴事業所において、主な利用者層が多いのかを教えてください。（複数回答可）

| 軽度要介護者 | 中度要介護者 | 重度要介護者 | 未記入 |
|---|---|---|---|
| 89 | 120 | 32 | 11 |




４．貴事業所のサービス提供時間を教えてください。　　　　　複数回答されている方あり

| 3時間以上5時間未満 | 5時間以上7時間未満 | 7時間以上9時間未満 | 未記入 |
|---|---|---|---|
| 24 | 98 | 121 | 3 |




５．貴事業所における利用者の状態像の維持・改善につながる取組みで、他の事業所の目標となるような取組みがあれば、記載してください。（事業所の特

転倒予防の為のROMの確保。バランストレーニングを中心に行っている。柔道整復師の機能訓練指導員を中心としているので、パーキンソン、脊柱管狭窄症など疾患を中心に対応している。

集団での運動プログラムの″充実″させています。

音楽療法を2週間毎に取り入れている。

全員での体操の時間、内容が充実している。体操だけではなく、頭の体操、音楽を取り入れている。

機能　を通じて介護度が低くなるよう取り組みを行っています。

外活動を進めて足の機能アップと野菜作りを進めている

アロママッサージによる浮腫軽減、歩行状態の改善があり。喜ばれています。

年一回公民館で作品展示会を行っている

他職種との連携(独居者の薬の管理、食事管理)

10名定員で家族的な雰囲気。手作りおやつ(簡単)を週3回は作っている

個別性によるリハビリ（PT、NS）

畑作業

看護師を中心にサービスを考える

手厚い人員の配置

個別レクリエーション、マシンの数。県外への旅行(介護保険外)

個別リハビリ、生活運動指導、退院後から生活機能向上訓練が出来る。

Dr.との連携は必要

運動器の改善に対する評価及びそれをUPするアプローチ　例：10M歩行　不足T 握力　70G （b評価）

利用者様が家で出来ないことや、したい事等をデイサービスで体験する事が出来、楽しく仲間作りが出来、リラックスできる

パワーリハビリ、3ヵ月後との評価

リハ特化型

フィットネス型デイサービス→エビデンス重視。体力測定の結果の見える他(モニタリング）

在宅でのより良い暮らしへつなげる介護(見守り、手添え、一部又は全介助)が、環境であったり、介護者側の力であったりするが、個別への対応を充実さす。

機能訓練に加え、マッサージを提供することでリフレッシュ効果も提供している。癒しを追求しています。

要介護者を就労(障害者)につなげていく取り組み

リハビリを中心に行い身体的維持向上を行うとともに自立支援として旅リアビリを行い、社会的自立の支援を行っています。

障害者の地域活動支援センターを併設、パソコン、書道等。講座型

あっぱれ桃太郎体操をみんなで行っている。

ラダー制度、キャリア段位制度の導入

利用者一人一人に合わせたサービスの提供。

パソコン、書道等の講座の実施

生活に繋がる視点

PTが常勤しており、リハビリに力を入れています。状態維持改善は御利用者の切なる思いで、認知症の方も含め皆様取り組まれています。重度の方もお受けしています。在宅でお困りになっている方も多数いらっしゃり、できるだけ、お受けできるように努力しております。

トレーニングマシンを最大限に活用。保険外で維持化改善となる目標を作り(例：旅行や趣味)機能訓練を楽しめるようにしている。

お若いご利用者さんの就労支援移行の事例

ノルディックウォークを特色として楽しく歩行訓練等を行っています。

家族が遠くにおられ認知がありながらお一人暮らしを続けておられる方が多く地域やご家族と人間関係をしっかり構築し情報支援、連絡、相談をしっかり家族ではないが、家族同様安心できるデイでありたいと日々努力しています。

加算取得に力をいれ積極的に取り組んでいる。特に個特Ⅱの実施・効果・利用者のやる気に注力しています。地域交流、季節行事の開催。

当社はISO9001、プライバシーマークを取得し、コンプライアンスに重きを置いた事業所です。こういった第3者評価取得は表にはならないだろうか。

管理栄養士を配置して利用者の食事、栄養面の充実を図っている。医療機関との連携があり、健康で安心安全な介護に努めている。他職種で認知症ケアに取り組んでいる。

地域密着事業｛勉強会(月２回)、ボランティア行事、地域行事への参加、配食サービス｝、非該当者サービス（営業日外での機能訓練サービス）、マシンを用いた機能訓練、多種多様な機能訓練プログラム。

当事業所では中度、重度の利用者様が多く来所されています。重度化防止のため、機能訓練の強化をしています。また家族様のレスパイトにも力を入れています。早期、延長、医療対応など。

ご利用者様との旅行支援、そこに向けたアプローチ。

医療的リハビリと癒し効果、自発性を添えるプログラム。

関連、併設施設との行事を通じ、三世代にわたって交流する機会を提供している。

景観に興味を持ってくださったことで、デイサービス嫌いであった改善可能高齢者が来られているように思う。ケアマネ紹介型が根強い業界が変わっていけたらと…。

認知症デイではマンツーマン対応を徹底することで、BPSDの軽減や在宅生活の長期化という部分に改善が見られます。方面、機能訓練などの機能を必要とするケアではなく、いわゆるマンパワーなので、今回の評価という部分では、見えてこない可能性もあるかと思います。

生活リハビリを中心に行っています。掃除、調理(片付けも)、洗濯物等、日常生活で実施する事を家では行っていない人も出来ることはご自分で行っていただいてます。

OT・あんまマッサージ・指圧師を配置し、リハビリ機器も少ないですが設置している。学習療法を取り入れている。IADLの部分でも、生活リハビリを主体としていて、食事準備やクッキング等も行っている。

施設内通貨

月１回のADL評価（FIM）の実施

2年目の為まだナシ。

利用者様、ケアマネ、利用者様のご家族様の許可があれば、病院受診について行かせていただき、状態の把握等を行い、維持、改善を考える。

リハビリメニュー機能訓練となるサービス項目を取り入れ、一日のご利用サービス内容に組み込んでいる。

午後の時間に集団体操を各月ごとにテーマを決めて行っています。

脳取れに取り組んでいます。いろんな種類(午前中能のトレーニング、昼体、精神のトレーニング）（心身ともに元気であるように）

デイサービスですが、リハビリへの取り組みにがんばっています。色々な意見をスタッフから聞いて、IADLの向上にもしっかり取り組んでいます。

居宅、家族への連絡、サービスへの提案

利用時間内では、状態像の把握には難しいため、ご自宅に訪問したり、ご家族ともコミュニケーションをとりながら、把握改善に努めている。

事業所では、家庭に居るような介護を目指しています。そのため多言利用者様への言葉遣いが家族と話すような話し方になりがちでした。敬うことを忘れず取り組んで行きたいと思いました。

個別リハビリを中心として自立を目指している。また、学校法人なので学生とのかかわり等で若々しさを感じてもらいながらのリハビリをしている。

PTによる個別リハ。小集団での専門的なリハビリ。リハビリ要素を取り入れたレクリエーションなど。

敷地内の畑にて季節の野菜作り、できた野菜を昼食おやつにして出して食べてもらう。

小規模でのデイサービスならではの利用者様一人一人にスタッフ全員が係り個人の状態に合わせ維持向上、同年代の方々との交流を図っている。

一般型、認知症型の2つがある。機能訓練にも力を入れており毎日３部構成で行っています。

定員１０名の小さな施設ですが、定期的に行きたい所、やりたい事、見てみたい、聞いてみたい事をとってそれをかなえていくようにしています。

利用者の方の状態像に合わせた独自の体操等を行っている。

行事回数など

外出レクをよく行っている（外食やドライブなど）

外出レクが多い

リハビリ特化型デイ、個別でのケア

同じリハビリ特化型でも様々な特色、コンセプトを持っているところが多いので参考にしたい。

ボランティアの受け入れ。音楽ボラ、5名グループ、絵手紙ボラ、抹茶ボラ、体操、演劇など。また先生方に夏冬お礼の気持ちを込めてデイ食事会に招待しています。

利用者一人一人とのふれあいを第一に考えています。家庭的な雰囲気の中で穏やかな時間を過ごします。

当施設は医療用マシンでリハビリトレーニング中心なので改善は多くみられている

創作趣味活動の量

PT、あんまマッサージ師による機能訓練

どっこも特色を出すのに必死ですよ！

個別リハビリの時間を十分にとっている

量的な数値でのみ記載するのではなく質的な部分どのように（機能訓練においての評価）動いているか、どのような仕方で介護量等も記入。

６．グループワークで活用した「評価項目・指標」以外に必要だと思う項目や指標があれば記載してください。

行政的には総合的なサービスを望んでいるが、利用者のニーズに合ったサービスとはどういうものか利用者の目線での協議も必要では？

特区デイサービス改善によってデイケアからの目線の資料も必要になるのではないかと思います

インセンティブの価格等を教えてほしい

職員か安心して働ける環境の整備、就業年数によって有給日数決まっているがなかなか取りにくい状況であるので気兼ねなく有給が取れるシステムになればいいと思う。

要支援の委託受け入れ

もっと詳しく話し合いを行っていく必要であると感じました。

１５の項目だと社会福祉士の実習受け入れが可能な通所施設が少ないという大学の意見を

認知症調査結果、介護度、活動量

利用者さんと直接的なかかわりの深さが利用者さんの表情や活動性を高める

トレーニングマシーンなどの設備。保険外の活動→サービスの延長上のもの

生活、日常リハビリを取り入れFaの希望等にも対応している。

それぞれデイの規模立場で追加指標が違うと感じました。

指標や項目が多くこの業界では評価しづらいことが多いので単純に平均介護度の上下を１定期周図って評価するのはどうか。評価項目を減らし、インセンティブにより費やす方が良いのでは事務作業的にも・・・。

事業所のものが質で目指すのであれば、上記のようなことが重要化と思う。

良いサービスを提供するするためには良い人材の確保、職員の質の向上は必要不可欠である。有資格者(国家資格等)を事業所評価に入れて欲しい。低い介護報酬の中で職員の生活を守るために適切な給与水準の確保が図れるよう人事体系の整備を図るための取り組みを評価して欲しい。

逆にまとめてもいいと思う項目が目立ちました。Ex:「広報誌～」は「情報開示」に加える。

残業の状況や離職率など

スタッフの離職率、定着率。アンケート形式の調査ではあまりに結果に差が出ないのでは？（当たり障りの無い回答が多い）

数量化しづらいもの、介護保障制度からもれている項目を持った事業で定現したい(利用継続率と認定内容の向上）

デイサービスの規模によって変わってくる項目が多い。適切な指標になるのか疑問。

利用者の環境設備や機器の充実などは事業所情報開示に向けた取り組みに含まれるのではないか。

事業所内、会社内における昇給、統計の制度が整備されていることは、必要だと思う。

利用者様満足度、家族満足度の調査。苦情対策研修への参加(各種研修への参加)に含めるべき。

岡山市の方でいろんなセミナーを取り組んでもらいたい(介護全般について)

付箋に書いています。検討してください。

小規模にも適した指標を。

付箋に記入しました。

第三者評価制度

各指標の検証はどうするのか疑問

７．その他ご意見等がございましたら、ご記入ください。

今の事業所に勤めだしてから20日目なので、全体的に難しかった。

力を入れている内容が違うので、とても参考になりました。また、是非、機会があれば参加したいです。

グループワークなら事前に教えてもらいたいです。

まだまだ協議や周知に時間が必要だと思います。

相談員等の基準を岡山市独自に設定しているが職員の体制を再評価するのはどうか。努力して改善できる項目にしていただきたい

次年度スタートの事業についての準備なり、方向性なり、具体案なりがあまりにも無さ過ぎる。行政とサービス主体が協議していくにしても絶対的な時間数が少なすぎる。もう少し意見を出し合える場所や時間が欲しいです。

指標を意識するあまり各事業所の運営が特徴を無くしはしないか…と心配の声がありました。

利用者様一人一人に合うプログラム探り、その方を知った上で個別でクッキングや教室等を行っていますが事業所の意識向上が職員一人1人の向上、やりがい、生きがい作りになればと思います。

質の向上という点ではどの事業所も一生懸命取り組んでいると思います。それを客観的に評価していただける計画的な方法があればがんばれる気がします！！

この説明会自体なんだか中に浮いている様な。又、市の職員さんの発言も的を得てないような内容ばかりで残念に思いました。

利用者の維持を改善することが必ずしも施設の評価とされない。介護度が良くなれば売り上げは下がり運営が難しくなる。人件費が高くなると運営は難しくなるがサービスは向上する。職員の給料はきつくてしんどい割りに低い。介護の世界は矛盾が多すぎると思う。

デイサービスにも大人数のでもあれば、特色独自の方針をもってされている事業所もあったので、評価を絞り込むことが難しいと思った

総合特区としてどのような結果を気にい報告したいのかというゴールに向けたインセンティブ事業にしていく必要があると思います。

デイサービスによって特色が様々で難しいですね。

指標の案が、大規模な事業所を対象として作成されているように感じる。

とても貴重な時間をいただきましてありがとうございます。

現場はなかなか青本か赤本のように机上では簡単にいかないことばかりです。基準という言葉でなにもかもすまないです。月々、各々一生懸命に　大切にその人らしく生活していただくために

やはり評価に見合う奨励金が気になります。開催時間が遅いです。

途中退席や職種にもばらつきがあった。もっと正しく説明会の主旨と伝えるべきではないか、と思う。

総合特区期待しています。効果的な財源の活用をしてください。

貴重な機会をありがとうございました。今後のサービス処遇改善への参考にしていきたいと思います。

グループワークの時間が足りず、意見をまとめられませんでした。指標が漠然としている部分があり選びにくいところがありました。

本日はこのような会の開催、参加させていただき、ありがとうございます。

事業所規模毎の課題差がわかるものがあればいい。

なぜデイサービスが対象になったのか？

「従事者支援」や「介護技術」などすべてに当てはまることかもしれませんが、事業所が高いレベルとなるために、行政の研修を義務で構いませんので、無料で開くことは出来ませんか？そうでない限り、自主的に行く人は事業所発展の意識が低い場合がありますし、管理者の考えを押し付けレベルの可能性もあります。サービス提供職員の質を上げるには、そちらの方が資産の使い道が無いかと考えます。

インセンティブ事業に事業所が取り組んでメリットが、高評価を得るための人件費、設備費等に見合わないのではないかと思う。仮にインセンティブは気持ち程度でも上位事業所は市が広報誌に載せるだけでなく、モンドセレクション金賞みたいな認定マークのようなものが事業所のHPや配布物で使用でき利用者増へのアピールに繋がるのならインセンティブ以上のメリットはあるかもしれない。

１年間でインセンティブ事業を進めて、インセンティブ付与まで実施するのは期間が短いように感じました。

なぜデイサービスだけがこのような事業の対象になったのでしょうか？

| |
|---|
| 既存にある加算等の取得数によってインセンティブをしてもいいのではないでしょうか？規模によって難しいなと感じた。 |
| よりよいものができ、デイサービスの質が上がるといいと思っています。すべての意見に目を通していただければと思います。 |
| どのような形で5月が評価するかが問題。 |
| 取り組みを数値で評価するのはなかなか難しいのではないかと思いました。実施にあたっては、詳しい説明をお願いします。 |
| 通所リハビリでは、医療管理加算がありますが、DS胃ろう、気切の方など受け入れした時の加算がありません。リハビリに積極的な母体の大きいDSとそれ以外との区別が難しい、機能を維持。重度・認知症の受け入れ多い事業所では状態の維持改善が評価されにくい。 |
| 他事業所の方々と話し合えたのはよかった。今回のことは、方向はわかるが、中身がよく見えない。<br>評価を誰がするのか。事業所の人間がするのか→マークシートのようにつけやすくするのか→味気のないものになってしまはないか<br>専門員がいて、まわってくるのか→その人好みに左右されてしまう<br>利用者側が必要なポイントを絞ったら、それに対応した施設がピックアップ出来るようなシステムづくりはできないか。（岡山市HPで） |
| 他事業者との質の評価を比較するのは、とても難しい作業であると思う。自事業所がどのような取り組みをしているかを評価する指標を作成し努力が目に見える形として、評価する方法を考えていただければやりがいも感じると思います。いろいろなタイプの事業所を評価されても意欲につながるとは思いません。 |
| 評価がよくて何の利点があるのかわからない。上位になったからといって利用者に満足度向上、デイの質が上がるとは限らないし利用者数が増えると思えない（公開しても利用者ケアマネは活用していない） |
| 意見交換会はあると聞いていましたが、グループワークがあるとは聞いていませんでした。事前に教えてほしかったです。 |
| これで事業所との同意と考えられると乱暴かな。 |
| デイの仕事は対個人なので難しい内容だと思いました。が、必要なことと思います。 |
| 説明会に参加させていただき勉強することが多くありました。ありがとうございました。 |
| 職員のスキルUPが必要だと思います。 |
| こういう機会はいいと思います。 |

## H26.2.4及び2.7 デイサービス改善インセンティブ事業説明会グループワーク集計結果

H26. 2. 14作成

| 大項目 | 番号 | 評価項目 | 項目選択率 | 項目の賛否等 | 個人の選定理由・意見等 | 件数 | 岡山市指標（案） | 賛否等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 従事者支援 | 1 | 資格取得に向けた支援、継続的な能力開発の実施 | 44% | 賛成 | 職員のスキル、モチベーションの向上が見込まれ、その結果サービスの向上にもつながる | 11件 | ○各事業所における資格取得に係る助成額のうち１件当たりの最大額 | **【賛成】**<br>・適切<br>**【意見】**<br>・指標の調査項目の定義、調査方法に注意が必要<br>・「ない」事業所がある（制度がない、やっていない等々）<br>**【新指標案】**<br>・研修ポイント制の導入とその評価<br>・資格取得に必要な時間数<br>・採用後、新たに資格取得した人数の割合<br>・資格取得に向けた勉強会の実施状況<br>・資格取得を目指している人数の割合 |
| | | | | 賛成 | 指標にすることで資格取得促進が図られる | 4件 | | |
| | | | | 賛成 | 指標が設定しやすい | 2件 | | |
| | | | | 賛成 | 全ての事業所が資格取得を推進することで、資格取得後の転職を抑制できる | 1件 | | |
| | 2 | 専門的ケア習得に向けた外部研修参加への支援 | 44% | 賛成 | 職員のスキル、モチベーションの向上が見込まれ、その結果サービスの向上にもつながる | 9件 | ○研究発表の回数<br>○研修助成金額 | **【賛成】**<br>・研修助成金額は適切　・状態像の改善につながる<br>**【意見】**<br>・研修発表が「ない」事業所がある（やっていない等々）<br>・指標が項目を評価するのに適切でない<br>・指標の調査の仕方に注意<br>**【新指標案】**<br>・内部研修の実行回数<br>・外部研修参加数（外部講師を招いての内部研修含む）<br>・研修にかかる費用（参加費の負担＋外部講師謝礼金）<br>・岡山市主催の研修会への参加回数・時間数 |
| | | | | 賛成 | 指標が設定しやすい | 1件 | | |
| | | | | 賛成 | 人材育成の体制が整っていることは重要 | 3件 | | |
| | 3 | 職員満足度の確保 | 67% | 賛成 | 職員の満足度は、人員確保につながり、サービスが安定供給できる | 14件 | ○満足度調査の結果 | **【賛成】**<br>・適切　・状態像の改善につながる<br>**【意見】**<br>・指標の調査の仕方に注意<br>**【新指標案】**<br>・制度の有無（結婚や子育てに関する）<br>・設備の有無（職員の休憩場所の確保）<br>・人事評価制度の整備状況 |
| | | | | 反対 | 実態と異なるデータになることが危惧される。指標化になじまない。 | 3件 | | |
| | | | | 反対 | 年代別で満足度の捉え方が異なるのではないか。指標化になじまない。 | 1件 | | |
| | 4 | 職員が安心して働ける環境の整備 | 44% | 賛成 | 労働条件の改善に寄与し、サービスの向上につながるため | 6件 | ○従業員の平均有給取得率<br>（職歴に応じて決まっている有給の取得率（労基法上の取得推奨率）） | **【賛成】**<br>・適切<br>**【意見】**<br>・指標が項目を評価するのに適切でない<br>・指標の調査項目の定義、調査方法に注意が必要<br>**【新指標案】**<br>・勤続年数(3年、5年以上の別合）、過去1年の退職者数<br>・キャリアパス制度　・残業時間の長短（短い方が良い）<br>・制度の有無（結婚や子育てに関する）　・第三者評価<br>・岡山市が提示した目標値の達成度 |
| | | | | 賛成 | 休暇制度、休暇取得の充実につながる | 4件 | | |
| | | | | 賛成 | 職員の育成につながる | 1件 | | |
| | | | | 賛成 | 労務管理につながる | 1件 | | |

# H26.2.4及び2.7 デイサービス改善インセンティブ事業説明会グループワーク集計結果

H26. 2. 14作成

| 大項目 | 番号 | 評価項目 | 項目選択率 | 項目の賛否等 | 個人の選定理由・意見等 | 件数 | 岡山市指標（案） | 賛否等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 介護技術 | 5 | 状態像の維持改善度<br>（自立に向けた取り組み） | 56% | 賛成 | 自立を目指すために重要である | 10件 | ○ADL維持改善率<br>○ＩＡＤＬ維持改善率<br>＜計算式＞<br>維持・改善人数／サービスを受けた利用者 | **【賛成】**<br>・指標が明確または簡易<br>・状態像の改善に繋がる<br>・適切<br>**【意見】**<br>・指標の調査の仕方に注意<br>**【新指標案】**<br>**・利用者満足度**　・身体能力評価テスト<br>・要介護度の変化 |
| | | | | 賛成 | 数値化しやすいため、主観的な指標が設定できる | 5件 | | |
| | | | | 賛成 | 維持を評価することは重要である | 1件 | | |
| | | | | 意見 | 評価項目としては良いが、統一的な評価基準の設定が重要 | 1件 | | |
| | 6 | 加算対象サービス以外の提供 | 56% | 賛成 | 加算以外のサービスの充実につながる | 7件 | ○加算対象サービス以外でで行っているサービスの種類 | **【賛成】**<br>・指標が明確または簡易<br>・状態像の改善に繋がる<br>**【意見】**<br>・指標の調査の仕方に注意　・指標の調査項目の定義に注意<br>・指標が項目を評価するのに適切でない<br>**【新指標案】**<br>・５段階（１～５点）の満足度調査<br>・所外活動加算、時間・回数の記録 |
| | | | | 賛成 | 状態の維持・改善につながる | 3件 | | |
| | | | | 賛成 | 事業所が実施可能な項目であるため | 1件 | | |
| | | | | 賛成 | 加算対象サービス以外が評価されれば、事業所の利益、職員の給与アップにつながる | 1件 | | |
| | 7 | 専門的な認知症ケアの提供 | 33% | 賛成 | 状態の維持・改善につながる | 3件 | ○認知症実践研修への参加人数<br>○認知症の調査の件数割合<br>（長谷川式、ＤＡＳＣ、浦上式、　等） | **【賛成】**<br>**・適切**　・状態像の改善に繋がる<br>**【意見】**<br>なし<br>**【新指標案】**<br>・検査実施により実態把握　・実践研修等専門家の育成<br>・家族アンケート　・岡山市主催の研修会への参加回数・時間数 |
| | | | | 賛成 | 高齢者の認知症対策は必須である | 4件 | | |
| | | | | 賛成 | 認知症の利用者が多いため | 1件 | | |
| | 8 | 自己評価の実施 | 0% | 賛成 | 質の向上につながり、指標として適切である | 2件 | ○内部評価実施人数<br>（キャリア段位における申請者数） | **【賛成】**　なし<br>**【意見】**　なし<br>**【新指標案】**　なし |
| | | | | 賛成 | 内部評価、自己評価の実施の促進につながる | 1件 | | |
| | 9 | キャリア段位制度への参加 | 0% | 賛成 | 介護技術の向上につながる | 2件 | ○キャリア段位研修会参加人数 | **【賛成】**　なし<br>**【意見】**　なし<br>**【新指標案】**　なし |
| | 10 | 利用満足度度調査の実施等による利用者の意見の収集 | 56% | 賛成 | 利用者ニーズを把握することで、サービスの向上につながる | 10件 | ○利用者満足度調査の公表率<br>○利用者満足度調査の結果 | **【賛成】**<br>・利用者の状態に応じたサービスにつながる<br>**【意見】**<br>・指標の調査の仕方に注意<br>**【新指標案】**<br>・利用者からの調査票の回収率 |
| | | | | 賛成 | 満足度の把握は、利用者及び家族のモチベーション向上策につなげることができる | 1件 | | |
| | | | | 賛成 | 未実施事業所の実施促進につながるため | 1件 | | |
| | | | | 反対 | 結果の信憑性が疑問である | 1件 | | |

## H26.2.4及び2.7 デイサービス改善インセンティブ事業説明会グループワーク集計結果

| 大項目 | 番号 | 評価項目 | 項目選択率 | 項目の賛否等 | 個人の選定理由・意見等 | 件数 | 岡山市指標（案） | 賛否等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業者の意識向上 | 11 | 職員のうち、個別機能訓練加算の対象となる国家資格取得者の配置人数（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師又は准看護師、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師） | 56% | 賛成 | 専門職の配置すること、適切な訓練の実施が可能となり、利用者の状態の維持・改善につながる | 13件 | ○機能訓練指導員について、国家資格の職種数<br>※人数の考え方は、公表されている事業所情報に準じて計算 | **【賛成】**<br>**・適切**　・指標が明確または簡易<br>**【意見】**<br>・反対　・指標が項目を評価するのに適切でない<br>**【新指標案】**<br>・介護度や疾病に応じた訓練内容を評価する指標<br>・機能訓練の結果で評価<br>・機能訓練指導員について、国家資格の職種数及び経験年数<br>・専門職員／定員<br>・利用者数、介護度別に対する職員数または改善率という割合 |
| | | | | 賛成 | 指導員の役割が明確化できる | 1件 | | |
| | | | | 反対 | 施設の規模による差が大きいなど、評価項目には馴染まない | 2件 | | |
| | | | | 反対 | 既に加算で評価されているため、評価項目には馴染まない | 1件 | | |
| | | | | 反対 | 指導員に資格要件がないため、国家資格で評価する必要はない | 1件 | | |
| | 12 | 生活相談員の体制 | 0% | 賛成 | 相談員に資格の有無は重要と思われる | 2件 | ○生活相談員のうち、常勤の社会福祉士がいるか、非常勤の社会福祉士がいるか、社会福祉士がいないかの３択<br>※人数の考え方は、公表されている事業所情報に準じて計算 | **【賛成】**　なし<br>**【意見】**　なし<br>**【新指標案】**　なし |
| | | | | 賛成 | 現行では、相談員に関する評価がされていないため有効と思われる | 1件 | | |
| | | | | 賛成 | 介護福祉士の配置数増加につながる | 1件 | | |
| | | | | 反対 | 職種を指標にするより、勤続年数の方が良い | 1件 | | |
| | | | | 意見 | 介護支援専門員でも良いのではないか | 3件 | | |
| | 13 | 介護職員の体制 | 67% | 賛成 | 介護福祉士の配置が充実することで、ケアの充実につながる | 11件 | ○介護福祉士人数／介護職員数<br>※人数の考え方は、公表されている事業所情報に準じて計算 | **【賛成】**<br>・適切　・状態像の改善につながる<br>**【意見】**<br>・指標の調査の仕方に注意<br>・指標の調査項目の定義に注意<br>**【新指標案】**<br>・利用者数、介護度別に対する職員数または改善率の割合<br>・研修の参加率 |
| | | | | 賛成 | 介護福祉士の配置数増加につながる | 2件 | | |
| | | | | 賛成 | 指標化しやすい | 1件 | | |
| | | | | 賛成 | 介護福祉士の報酬増加につながる | 1件 | | |
| | | | | 意見 | 介護福祉士はもっと評価されるべき | 1件 | | |
| | | | | 反対 | 介護職員に介護福祉士の割合が多いことが良いサービスに繋がるわけではない | 1件 | | |
| | | | | 反対 | 既に加算で評価されているため、評価項目には馴染まない | 1件 | | |

# H26.2.4及び2.7 デイサービス改善インセンティブ事業説明会グループワーク集計結果

H26. 2. 14作成

| 大項目 | 番号 | 評価項目 | 項目選択率 | 項目の賛否等 | 個人の選定理由・意見等 | 件数 | 岡山市指標（案） | 賛否等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業者の意識向上 | 14 | 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師又は准看護師、柔道整復師、あん摩マツサージ指圧師、社会福祉士、介護福祉以外の専門職の配置人数 | 11% | 賛成 | 職員のスキルの向上が見込まれ、その結果サービスの向上にもつながる | 2件 | ○歯科衛生士、管理栄養士、音楽療法士、認知症ケア専門士等の職種数 | **【賛成】** なし<br>**【意見】** なし<br>**【新指標案】** なし |
| | | | | 賛成 | 既存の専門職以外の活用が図られるべき | 2件 | | |
| | | | | 賛成 | ＤＳを差別化するために必要 | 1件 | | |
| | 15 | 実習生の受け入れ | 44% | 賛成 | 未来のスタッフ養成は評価すべき | 4件 | ○受け入れ延べ人数／定員<br>○受け入れ日数 | **【賛成】**<br>・適切<br>**【意見】**<br>・指標の調査項目の定義、調査方法に注意が必要<br>**【新指標案】**<br>なし |
| | | | | 賛成 | 受け入れることで、事業所の意識、スキルの向上につながる | 2件 | | |
| | | | | 賛成 | 地域貢献の一環として促進すべき | 1件 | | |
| | | | | 賛成 | サービスの安定供給につながる | 1件 | | |
| | | | | 意見 | 資格の取得状況が学校によってことなるので、評価項目にするのは難しいのではないか | 1件 | | |
| | | | | 反対 | 養成機関が主導になるため、評価項目に馴染まない | 1件 | | |
| | 16 | 利用者がくつろげる環境の整備、事業所全体の雰囲気の快適性への配慮 | 56% | 賛成 | 利用者が心地よく過ごせる環境は重要 | 7件 | ○食堂及び機能訓練室について、併せた面積と利用定員の商の値<br>（指定基準は３平方メートル ×利用定員） | **【賛成】**<br>・**適切**　・状態像の改善に繋がる<br>・利用者の状態に応じたサービスに繋がる<br>**【意見】**<br>・指標の調査の仕方に注意<br>**【新指標案】**<br>なし |
| | | | | 賛成 | 利用者の状態の維持・改善につながる | 5件 | | |
| | | | | 賛成 | 評価項目として適切 | 3件 | | |
| | 17 | 状態像の維持改善を図るための機器等の充実 | 44% | 賛成 | 利用者の状態の維持・改善につながる | 11件 | ○機能訓練用の機器類及びレクリエーション用の機器の種類<br>○定員数に対する機器の配置数 | **【賛成】**<br>なし<br>**【意見】**<br>・指標の調査項目の定義に注意　・指標が項目を評価するのに適切でない<br>**【新指標案】**<br>・アセスメントの充実具合<br>・メニュー、プログラムの実施頻度、回数、量、時間<br>・複数のメニュー、プログラムの有無<br>・機器の配置数<br>・訓練、休憩所スペース |
| | | | | 賛成 | 自立支援のための設備の充実は重要 | 4件 | | |
| | | | | 賛成 | 機器等の充実は、安定的な経営の根拠となるため | 1件 | | |
| | | | | 反対 | 施設の規模による差が大きいなど、評価項目には馴染まない | 1件 | | |

H26.2.14作成

## H26.2.4及び2.7 デイサービス改善インセンティブ事業説明会グループワーク集計結果

| 大項目 | 番号 | 評価項目 | 項目選択率 | 項目の賛否等 | 個人の選定理由・意見等 | 件数 | 岡山市指標（案） | 賛否等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業者の意識向上 | 18 | 広報紙の定期的な発行 | 22% | 賛成 | 利用者の増加が図られる | 3件 | ○年間の発行数 | **【賛成】**<br>・適切　・指標が明確または簡易<br>・利用者の状態に応じたサービスに繋がる<br>**【意見】**<br>・指標の調査の仕方に注意<br>**【新指標案】**<br>なし |
| | | | | 賛成 | 指標として適切 | 2件 | | |
| | | | | 賛成 | 事業所の取り組みを周知でき、意見が入ってくることで事業所のレベル向上につながる | 2件 | | |
| | | | | 賛成 | 広報紙の発行部数、回数増加の促進が図られる | 2件 | | |
| | | | | 賛成 | 利用者の選択の幅が広がる | 2件 | | |
| | | | | 賛成 | 事業所自身の自己研鑽に寄与する | 1件 | | |
| | 19 | 事業所情報開示に向けた取組 | 44% | 賛成 | 利用者の選択の幅が広がる | 6件 | ○県が管理する事業所検索ＨＰにおける任意事項の記載数 | **【賛成】**<br>・適切<br>**【意見】**<br>・指標が項目を評価するのに適切でない<br>**【新指標案】**<br>・HPの更新回数<br>・介護情報誌の発刊 |
| | | | | 賛成 | 事業者の責任意識の向上につながる | 1件 | | |
| | 20 | 医療機関との連携(急変時、精神科（認知症）、歯科医) | 33% | 賛成 | 利用者の安心につながる | 7件 | ○緊急搬送先を把握している利用者の人数 | **【賛成】**<br>・利用者の状態に応じたサービスにつながる<br>**【意見】**<br>・指標の調査項目の定義に注意　・指標が項目を評価するのに適切でない<br>**【新指標案】**<br>・意見書や検査結果の提供を受けているか<br>・情報共有した記録物<br>・救急搬送できる医療機関数 |
| | | | | 賛成 | ＤＳにとって医療機関との連携は必須 | 4件 | | |

## H26.2.4及び2.7 デイサービス改善インセンティブ事業説明会グループワーク集計結果

H26. 2. 14作成

| 大項目 | 番号 | 評価項目 | 項目選択率 | 項目の賛否等 | 個人の選定理由・意見等 | 件数 | 岡山市指標（案） | 賛否等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域住民の意識向上 | 21 | 地域社会との交流（地域行事の参加等） | 11% | 賛成 | 地域との交流・連携は重要 | 4件 | ○地域住民が参加可能な施設内行事の実施回数（／年） | **【賛成】**<br>・適切<br>**【意見】**<br>なし<br>**【新指標案】**<br>なし |
| | | | | 賛成 | 地域で支えることが重要 | 2件 | | |
| | | | | 賛成 | 利用者の社会交流の場を増やすことにつながる | 2件 | | |
| | | | | 反対 | 地域住民の意識向上は不要 | 1件 | | |
| | 22 | 地域住民の介護体験やボランティアの積極的な受け入れ | 67% | 賛成 | 地域住民の介護に対する理解を深めることにつながる | 9件 | ○延べ人数／定員 | **【賛成】**<br>・適切　・指標が明確または簡易<br>**【意見】**<br>・指標の調査項目の定義に注意　・指標が項目を評価するのに適切でない<br>**【新指標案】**<br>・受入回数<br>・受入の延べ団体数 |
| | | | | 賛成 | 利用者のリフレッシュにつながる | 3件 | | |
| | | | | 賛成 | サービス内容を透明化することで、内容の充実に繋がる | 2件 | | |
| | | | | 反対 | 評価項目に馴染まない | 1件 | | |
| | | | | 反対 | 地域住民の意識向上は不要 | 1件 | | |
| | 23 | 家族会、介護教室の開催 | 33% | 賛成 | 家族がＤＳでの利用者の状況を把握することで介護への理解が深まる | 5件 | ○開催日数 | **【賛成】**<br>・適切　・状態像の改善につながる<br>・指標が明確または簡易<br>**【意見】**<br>・指標の調査の仕方に注意<br>**【新指標案】**<br>・登録者数に対する参加割合 |
| | | | | 賛成 | 地域住民の意識改革につながる | 2件 | | |
| | | | | 賛成 | 現在取り組みを行っていない事業所の開催促進につながる | 2件 | | |
| | | | | 賛成 | 利用者及び家族が安心してサービスを受けることができる | 2件 | | |
| | | | | 賛成 | 利用者の自宅での様子が把握できる | 1件 | | |
| | | | | 反対 | 地域住民の意識向上は不要 | 1件 | | |
| | 24 | 利用者、・家族等との適切なコミュニケーション | 56% | 賛成 | 事業者と利用者・家族との理解が深まり、サービスの質の向上に繋がる | 7件 | ○利用者懇談会の開催件数（／年）<br>○家族への意思決定支援件数 | **【賛成】**<br>・適切<br>**【意見】**<br>・指標の調査項目の定義に注意　・指標が項目を評価するのに適切でない<br>**【新指標案】**<br>・広報紙の発行回数<br>・相談件数<br>・連絡帳の利用<br>・利用者家族へのアンケート調査実施有無、結果<br>・担当者会議への参加件数 |
| | | | | 賛成 | 情報共有は重要 | 5件 | | |
| | | | | 反対 | 地域住民の意識向上は不要 | 1件 | | |
| | | | | 反対 | 数字に表れないものもあるため、評価項目には馴染まない | 1件 | | |

# 資料6

# 通所介護サービスの質の評価に関する調査票

平成26年2月28日

市内通所介護事業所　各位

岡山市保健福祉局
新病院・保健福祉政策推進課

総合特区デイサービス改善インセンティブ事業に係る調査票について（依頼）

平素より岡山市の総合特区事業にご協力頂き、誠にありがとうございます。
２月４日、７日に開催しました事業説明会での皆様のご意見等を踏まえ、評価項目・指標を修正し調査票を作成しました。
つきましては、説明会でお知らせしたとおり、市内全通所介護事業所を対象に調査を実施いたします。
今回の調査目的は、来年度実施予定のデイサービス改善インセンティブ事業に向けての現状把握であり、今回の調査でインセンティブの付与が決まるものではありませんが、当該事業の評価基準を考える上で重要な基礎データとなるものですので、ご多忙の時期とは思いますが、ご協力をお願いいたします。
なお、調査結果については、ホームページ等で公表する場合もありますので、ご留意願います。
また、ご不明な点等ございましたら、下記問い合わせ先までご連絡ください。

〇調査票：別添のとおり
〇回答方法：紙1部（同封の返信用封筒にて郵送）
〇提出期限：平成26年3月13日（木）

【スケジュール（予定）】

| | |
|---|---|
| 平成26年2月28日 | 各指標に対するデータ収集のための調査票送付 |
| 平成26年3月下旬<br>～4月 | 事業説明会の開催<br>（平成26年度事業の概要説明） |
| 平成26年6月頃 | 事業説明会の開催<br>デイサービス改善インセンティブ事業スタート<br>各指標に対するデータ収集のための調査実施 |
| 平成26年12月頃 | 各指標に対するデータ収集のための調査実施 |
| 平成27年3月 | 上位にインセンティブ（奨励金）を付与 |

【提出先・問い合わせ先】
岡山市　新病院・保健福祉政策推進課
医療福祉戦略室　黒瀬、守安
TEL 086-803-1638
FAX 086-803-1776
Mail masakazu_moriyasu@city.okayama.jp

２月４日、７日の説明会で使用した説明資料、ご意見の集計結果及び別添の調査票①、②については下記URL（当課HP）に公表しています。

http://www.city.okayama.jp/hofuku/hokenfukushiseisaku/hokenfukushiseisaku_00078.html

【ご参考：２月４日、７日の説明会資料等の掲載先】

# 通所介護サービスの質の評価に関する調査①　別　添

　今回の調査目的は、来年度実施予定のデイサービス改善インセンティブ事業に向けての現状把握であり、今回の調査でインセンティブの付与が決まるものではありませんが、当該事業の評価基準を考える上で重要な基礎データとなるものです。

■記入にあたってのご注意
・（　　　　）の箇所には、具体的に言葉や数字をご記入下さい。
・特に指定の無い限り、選択肢の番号1つを選んで○印をお付け下さい。
・数字を記入する欄が０（ゼロ）の場合、空欄のままではなく、必ず「０」とご記入下さい。
・小数については、小数第2位を四捨五入の上、記載をお願いします。
・記入の終わった調査票は、同封の返信用封筒を使い、平成２６年３月１３日（木）までにご返送下さい。

| (Ⅰ)基本情報（事業所データ） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ①事業所名及び担当名 | | | | ②事業所番号 | | |
| ③所在地 | 岡山市（　　）区 | | | ④施設定員数<br>（H26.2.1時点） | | 人 |
| ⑤開設主体 | 1.　営利法人　2. 社会福祉法人<br>3.　医療法人　4. その他（　　　　　） | | | | ⑥開設年月<br>（西暦） | |
| ⑦連絡先 | | | ⑧メールアドレス | | | |
| ⑦要介護度別利用者数（人）<br>（H26.2.1時点） | 要支援1 | 要支援2 | | | | |
| | | | | | | |
| | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | |
| | | | | | | |
| ⑩併設している施設(H26.2.1時点) | ①医療機関併設　②介護施設併設　③その他併設<br>※介護施設とは、介護の施設サービスを提供している特別養護老人ホーム等をいいます。<br>※その他には、居宅介護支援事業所や訪問介護事業所等をいいます。 | | | | | |

| (Ⅱ)基本情報（職員体制） | 常勤 | | 非常勤 | | 合計 | 常勤換算人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 専従 | 非専従 | 専従 | 非専従 | | |
| 生活相談員 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 |
| 看護職員 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 |
| 介護職員 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 |
| 機能訓練指導員 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 |
| 歯科衛生士 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 |
| 管理栄養士 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 |
| 事務員 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 |
| その他の職員 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 |
| 総職員数 | | | | | （　　）人 | （　　）人 |
| 1週間のうち、常勤の職員が勤務すべき時間数 | | | | | （　　）時間 | |

※　常勤換算人数とは、当該事業所の職員の勤務延時間数を当該事業所において常勤の職員が勤務すべき時間数で除することにより、当該事業所の職員の人数を常勤の職員の人数に換算した人数をいう。（11）～（13）も同じ。
※　兼務している職員については主たる職種で、管理者が兼務している場合は兼務している職種での計上してください。（管理者が専従の場合は「その他の職員」として計上してください）

## （Ⅲ）基本情報（加算の算定状況）
## （平成25年12月実施分（1月申請分））

| 加算費目 | 算定あり･･･「1」<br>算定なし･･･「2」 | 加算費目 | 算定あり･･･「1」<br>算定なし･･･「2」 |
|---|---|---|---|
| ①入浴介助加算 | 1.あり　2.なし | ⑥サービス提供体制強化加算（Ⅰ） | 1.あり　2.なし |
| ②個別機能訓練加算（Ⅰ） | 1.あり　2.なし | ⑦サービス提供体制強化加算（Ⅱ） | 1.あり　2.なし |
| ③個別機能訓練加算（Ⅱ） | 1.あり　2.なし | ⑧サービス提供体制強化加算（Ⅲ） | 1.あり　2.なし |
| ④栄養改善加算 | 1.あり　2.なし | ⑨介護職員処遇改善加算（Ⅰ） | 1.あり　2.なし |
| ⑤口腔機能向上加算 | 1.あり　2.なし | ⑩介護職員処遇改善加算（Ⅱ） | 1.あり　2.なし |
| | | ⑪介護職員処遇改善加算（Ⅲ） | 1.あり　2.なし |

## （Ⅳ）平成25年の各種状況　（平成25年1月～25年12月）

### （1）資格取得に向けた支援,継続的な能力開発の実施

| | | |
|---|---|---|
| ①各事業所における資格取得に係る負担金のうち1件当たりの最大額 | 対象資格<br><br>（右記リストより、貴事業所における資格取得にかかる負担額が最も大きいものを一つ選び番号記載してください。） | |
| | 施設負担額 | （　　　）円 |

| | |
|---|---|
| 1 | 社会福祉士 |
| 2 | 介護福祉士 |
| 3 | 管理栄養士 |
| 4 | 音楽療法士 |
| 5 | 認知症介護実践リーダー |
| 6 | その他（　　　　　　　　） |

※リストにある資格は例示であり、1～5以外の資格について該当があれば、「6その他」欄に記載してください。
※既に資格を取っており、その資格に対する給与への加算は上記に含まれません。
※資格取得にかかる助成額（試験料、受講料、必要な研修費、奨励金等）の総額を記載して下さい。

### （2）専門的ケア習得に向けた外部研修参加への支援

| | 対象職種 | 看護職員 | 介護職員 | 機能訓練指導員 | 生活相談員 |
|---|---|---|---|---|---|
| ①施設外で実施された研修への参加状況 | 参加人数（延べ） | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 |
| | 参加人数（実人数） | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 |
| ②施設内部における研修への参加状況 | 対象職種 | 看護職員 | 介護職員 | 機能訓練指導員 | 生活相談員 |
| | 参加人数（延べ） | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 |
| | 参加人数（実人数） | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 | （　　）人 |

※ここでいう「研修」とは、専門的ケア習得に向けた研修会、講習会、研究会等を指します。（規模の大小は問いません）
※参加したという記録が残っている研修が対象となりますので、後日、研修記録の提出を求める場合もございます。
※兼務されている職員については、主たる職種で計上して下さい。

### （3）職員満足度の確保

| | | |
|---|---|---|
| ①職員への満足度調査 | 実施の有無 | 1. あり（　　　）人　2. なし |
| | 結果の公表<br><br>（複数可） | 1.　結果を施設内に掲示<br>2.　結果を記した配布文書を備え付けている<br>3.　公表していない<br>4.　その他（　　　　　） |

※満足度調査の様式については、各事業所の任意様式になります。（単なる意向調査は対象になりません）
※満足度調査の様式についても併せてご提出をお願いします。

### （4）職員が安心して働ける環境の整備

| | | 看護職員 | 介護職員 | 機能訓練指導員 | 生活相談員 |
|---|---|---|---|---|---|
| ①職員の有給取得状況 | 平均有給取得率 | （　　）% | （　　）% | （　　）% | （　　）% |
| ②離職率 | | 看護職員 | 介護職員 | 機能訓練指導員 | 生活相談員 |
| | 離職率 | （　　）% | （　　）% | （　　）% | （　　）% |

※①有給取得率　＝　有給取得日数 / 付与日数　×　100
　・有給取得日数及び付与日数は、平成25年1月1日～平成25年12月31日間におけるものとする。
　・調査対象職員は、調査対象期間に全期間在職した者とし、調査対象期間中に育児休業、休職等の期間がある職員を除く。
※②離職率＝平成25年1月1日～平成25年12月31日間の離職者数÷平成25年1月1日時点の在籍者数×100
※後日、上記数値の根拠資料の提出を求める場合もございます。

### （5）状態像の維持改善度（自立に向けた取り組み）
今回は不要（来年度実施）

## (6)加算対象サービス以外の提供

| ①独自のサービスの内容 | | |
|---|---|---|
| サービス名称 | 具体的内容(頻度、時間数等) | 効果 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

※貴事業所において、特に力をいれている加算対象サービス以外のプログラムを記載してください。
（例：反射訓練、施設内通貨、プールでのトレーニング　など）
※上記の枠以上に記載する場合は別紙対応にてお願いいたします。
※後日、上記数値の根拠資料の提出を求める場合もございます。

## (7)専門的な認知症ケアの提供

| | | |
|---|---|---|
| ①認知症実践研修への参加人数 | 参加実人数 | （　　　　　）人 |

## (8)自己評価の実施

| | |
|---|---|
| ①内部評価実施人数<br>(キャリア段位における申請者数) | 今回は不要(来年度実施) |

※キャリア段位制度については、下記HPををご覧ください。
介護プロフェッショナルキャリア段位　https://careprofessional.org/careproweb/jsp/

## (9)キャリア段位制度への参加

| | |
|---|---|
| ①キャリア段位研修会への参加人数 | 今回は不要(来年度実施) |

## (10)利用満足度調査の実施等による利用者の意見の収集

| | | |
|---|---|---|
| ①利用者への満足度調査 | 実施の有無 | 1. あり(　　　　　)人　2. なし |
| | 利用者からのご意見への対応についての公表(複数可) | 1.　結果を施設内に掲示<br>2.　結果を記した配布文書を備え付けている<br>3.　公表していない<br>4.　その他(　　　　　　　　　) |

※満足度調査の様式については、各事業所の任意様式になります。
※満足度調査の様式についても併せてご提出をお願いします。

## (11)職員のうち、個別機能訓練加算の対象となる国家資格取得者の配置人数

| 職員である機能訓練指導員が有している資格 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ人数 | 常勤 | | 非常勤 | | 合計 | 常勤換算人数 |
| | 専従 | 非専従 | 専従 | 非専従 | | |
| 理学療法士 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |
| 作業療法士 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |
| 言語聴覚士 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |
| 看護師及び准看護師 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |
| 柔道整復師 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |
| あん摩マッサージ指圧師 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |

※常勤換算人数の考え方は「(Ⅱ)基本情報(職員体制)」のとおり。

## (12)生活相談員の体制

| 職員である生活相談員が有している資格 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ人数 | 常勤 | | 非常勤 | | 合計 | 常勤換算 |
| | 専従 | 非専従 | 専従 | 非専従 | | 人数 |
| 社会福祉士 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |
| 社会福祉主事 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |
| 介護支援専門員 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |

※常勤換算人数の考え方は「(Ⅱ)基本情報(職員体制)」のとおり。

## (13)介護職員の体制

| 職員である介護職員が有している資格 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ人数 | 常勤 | | 非常勤 | | 合計 | 常勤換算 |
| | 専従 | 非専従 | 専従 | 非専従 | | 人数 |
| 介護福祉士 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |
| 実務者研修 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |
| 介護職員基礎研修 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |
| 訪問介護員　1級 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |
| 訪問介護員　2級 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |
| 介護支援専門員 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 | (　　)人 |

※常勤換算人数の考え方は「(Ⅱ)基本情報(職員体制)」のとおり。

## (14)理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師又は准看護師、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、社会福祉士、介護福祉士以外の資格者の配置人数

| 対象資格 | 人数 |
|---|---|
| | (　　)人 |
| | (　　)人 |
| | (　　)人 |
| | (　　)人 |
| | (　　)人 |
| | (　　)人 |

※例えば、介護支援専門員、管理栄養士・栄養士、薬剤師、歯科医師　音楽療法士、認知症ケア専門士　など

## (15)実習生の受け入れ

| ①受け入れ実績 | 受け入れ延べ日数 | 受け入れ延べ人数 |
|---|---|---|
| | (　　)日 | (　　)人 |

※介護福祉士実践指導講習を受けた職員、または3年以上の臨床経験を有する理学療法士、作業療法士による受け入れをした場合に限る。
※後日、上記数値の根拠資料の提出を求める場合もございます。

## (16)利用者がくつろげる環境の整備、事業所全体の雰囲気の快適性への配慮

| ①食堂及び機能訓練室の面積 | 食堂及び機能訓練室の面積(ア) | 利用定員(イ) | (ア)/(イ) |
|---|---|---|---|
| | (　　)㎡ | (　　)人 | (　　) |

## （17）状態像の維持改善を図るための機器等の充実

①機能訓練用の機器類及びレクリエーション用の機器の種類

| 機器の名称 | 具体的内容（頻度、時間数等） | 効果 | サービス提供計画の位置づけの有無 |
| --- | --- | --- | --- |
| | | | 1.あり　2.なし |
| | | | 1.あり　2.なし |
| | | | 1.あり　2.なし |

※例えば、タブレット、電子浴治療器、マッサージ器、マシンなどを使った筋力トレーニング　など
※上記の枠以上に記載する場合は別紙対応にてお願いいたします。

## （18）広報誌の定期的な発行

| | 広報誌の種類 | 年間の発行部数 |
| --- | --- | --- |
| ①広報誌の発行状況 | （　　　　）種 | （　　　　）部数 |

※定期的に発行しているチラシ及びパンフレットが対象となります。
※事業所ごとではなく、法人として発行しているパンフレットについては、事業所ごとの基本情報が記載されていれば、計上してください。
※同じ広報誌であれば、種類のカウントは1つでお願いします。
　例えば、毎月発行している岡山市の広報誌「市民の広場」であれば、種類のカウントは「１」となります。
※後日、上記数値の根拠資料の提出を求める場合もございます。

## （19）事業所情報開示に向けた取組

| | |
| --- | --- |
| ①岡山県　介護事業所検索「介護サービス情報公表システム」の更新状況 | 1　変更点があれば、その都度変更している |
| | 2　年に一度必ず更新している |
| | 3　年に一度必ずしも更新していない |

※①のサイト　→　http://www.kaigokensaku.jp/33/

## （20）地域住民等との連携

| | |
| --- | --- |
| ①地域住民を対象とした介護技術教室等の開催回数 | （　　　　）回 |
| ②地域住民の介護体験やボランティア等の受け入れ人数（延べ人数） | （　　　　）人 |
| ③地域住民を受け入れている施設内行事の実施回数 | （　　　　）回 |

## （21）利用者家族とのコミュニケーションの状況

| | |
| --- | --- |
| ①利用者家族懇談会の開催 | （　　　　）回 |

| | | |
| --- | --- | --- |
| ②家族への満足度調査 | 実施の有無 | 1．あり（　　　　）人　2．なし |
| | 家族からのご意見への対応についての公表（複数可） | 1.　結果を施設内に掲示<br>2.　結果を記した配布文書を備え付けている<br>3.　公表していない<br>4.　その他（　　　　　　　　） |
| | 地域住民への結果の公表 | 1．あり　　2．なし |

※満足度調査の様式については、各事業所の任意様式になります。
※満足度調査の様式についても併せてご提出をお願いします。

# 通所介護施設におけるサービスの質の評価について

１）次に挙げる施設における取組みを、下記のような評価指標を用いて評価することは、介護サービスの質の向上に有効とお考えですか。最も近いと思われる番号を選び、○をつけてください。

| 評価の視点 | | | 介護サービスの質の向上に | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 1<br>有効である | 2<br>やや有効である | 3<br>あまり有効ではない | 4<br>有効ではない |
| 1 | 資格取得に向けた支援，継続的な能力開発の実施 | 各事業所における資格取得に係る助成額のうち１件当たりの最大額 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-1 | 専門的ケア習得に向けた外部研修参加への支援 | 施設外で実施された研修への参加状況 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-2 | | 施設内部における研修への参加状況 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2-3 | | 岡山市主催の研修会の参加 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-1 | 職員満足度の確保 | 職員への満足度調査 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3-2 | | 職員の疲労蓄積度自己診断チェックリスト | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4-1 | 職員が安心して働ける環境の整備 | 職員の有休取得状況 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4-2 | | 過去１年の退職者数 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 状態像の維持改善 | 要介護度、ＩＡＤＬ | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6 | 加算対象サービス以外の提供 | 独自のサービスの内容 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7-1 | 専門的な認知症ケアの提供 | 認知症の受け入れ人数 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7-2 | | 認知症の調査件数 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8 | 自己評価の実施 | 内部評価実施人数（キャリア段位における申請者数） | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9 | キャリア段位制度への参加 | キャリア段位研修会への参加人数 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10-1 | 利用満足度度調査の実施等による利用者の意見の収集 | 利用者への満足度調査 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10-2 | | 家族への満足度調査 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11 | 職員のうち、個別機能訓練加算の対象となる国家資格取得者の配置人数 | 従業者である機能訓練指導員が有している資格 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12 | 生活相談員の体制 | 従業者である生活相談員が有している資格 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13 | 介護職員の体制 | 従業者である介護職員が有している資格 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 14 | 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師又は准看護師、柔道整復師、あん摩マツサージ指圧師、社会福祉士、介護福祉以外の専門職の配置人数 | 資格数 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 15 | 実習生の受け入れ | 受け入れ実績 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16-1 | 利用者がくつろげる環境の整備、事業所全体の雰囲気の快適性への配慮 | 食堂及び機能訓練室について、併せた面積と利用定員の商の値 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16-2 | | 環境評価アセスメント調査 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 17 | 状態像の維持改善を図るための機器等の充実 | 機能訓練用の機器類及びレクリエーション用の機器の種類 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 18 | 広報誌の定期的な発行 | 広報誌の発行回数 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 19 | 事業所情報開示に向けた取組 | 介護情報公表システムの更新状況 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 20-1 | 医療機関との連携（急変時、精神科（認知症）、歯科医） | 急変時に連携先の医療機関への連絡回数 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 20-2 | | 定期的な医師の訪問 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 21-1 | 地域住民、家族等との連携 | 地域住民を対象とした介護技術教室等の開催回数 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 21-2 | | 地域住民の介護体験やボランティア等の受け入れ人数 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 21-3 | | 地域住民を受け入れている施設内行事の実施回数 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 22-1 | 利用者家族とのコミュニケーションの状況 | 利用者家族への手紙や施設便りの発送回数 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 22-2 | | 利用者懇談会の開催 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 22-3 | | 家族への満足度調査 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 23 | 家族の負担感 | 家族の負担感調査の実施率 | 1 | 2 | 3 | 4 |

# 資料7

# 通所介護サービスの質の評価に関する調査結果（有効性調査のみ）

# 通所介護サービスの質の評価に関する調査②

下記のような評価指標を用いて評価することは、介護サービスの質の向上に有効とお考えですか。最も近いと思われる番号を選び、〇をつけてください。

2014/3/31 時点 回答件数 224 事業所

| | 評価の視点 | 指標 | 介護サービスの質の向上に 1 有効である | 2 やや有効である | 3 あまり有効でない | 4 有効ではない | 0 記載無し | 有効である（「記載無し」は分母から排除） | 有効でない（「記載無し」は分母から排除） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 資格取得に向けた支援，継続的な能力開発の実施 | 各事業所における資格取得に係る負担金のうち１件当たりの最大額 | 73 | 87 | 45 | 5 | 14 | 76.2% | 23.8% |
| 2-1 | 専門的ケア習得に向けた外部研修参加への支援 | 施設外で実施された研修への参加状況 | 76 | 120 | 15 | 2 | 11 | 92.0% | 8.0% |
| 2-2 | | 施設内部における研修への参加状況 | 76 | 112 | 23 | 1 | 12 | 88.7% | 11.3% |
| 2-3 | | 岡山市主催の研修会の参加（※） | 63 | 127 | 17 | 4 | 13 | 90.0% | 10.0% |
| 3-1 | 職員満足度の確保 | 職員への満足度調査 | 53 | 114 | 37 | 6 | 14 | 79.5% | 20.5% |
| 3-2 | | 職員の疲労蓄積度自己診断チェックリスト（※） | 35 | 107 | 61 | 7 | 14 | 67.6% | 32.4% |
| 4-1 | 職員が安心して働ける環境の整備 | 職員の有給取得状況 | 58 | 104 | 40 | 10 | 12 | 76.4% | 23.6% |
| 4-2 | | 離職率 | 72 | 92 | 43 | 4 | 13 | 77.7% | 22.3% |
| 5 | 状態像の維持改善 | 要介護度、ＩＡＤＬ | 81 | 91 | 31 | 7 | 14 | 81.9% | 18.1% |
| 6 | 加算対象サービス以外の提供 | 独自のサービスの内容 | 95 | 95 | 20 | 1 | 13 | 90.0% | 10.0% |
| 7-1 | 専門的な認知症ケアの提供 | 認知症実践研修への参加人数 | 65 | 110 | 34 | 3 | 12 | 82.5% | 17.5% |
| 7-2 | | 認知症高齢者の受け入れ人数 | 55 | 107 | 44 | 2 | 15 | 77.5% | 22.0% |
| 7-3 | | 岡山市主催の研修会への参加（※） | 69 | 109 | 28 | 6 | 12 | 84.0% | 16.0% |
| 8 | 自己評価の実施 | 内部評価実施人数（キャリア段位における申請者数） | 44 | 119 | 39 | 2 | 20 | 79.9% | 20.1% |
| 9 | キャリア段位制度への参加 | キャリア段位研修会への参加人数 | 30 | 111 | 52 | 8 | 23 | 70.1% | 29.9% |
| 10 | 利用満足度調査の実施等による利用者の意見の収集 | 利用者への満足度調査 | 105 | 84 | 18 | 3 | 14 | 90.0% | 10.0% |
| 11 | 職員のうち、個別機能訓練加算の対象となる国家資格取得者の配置人数 | 職員である機能訓練指導員が有している資格 | 69 | 96 | 38 | 7 | 14 | 78.6% | 21.4% |
| 12 | 生活相談員の体制 | 職員である生活相談員が有している資格 | 66 | 101 | 38 | 8 | 11 | 78.4% | 21.6% |
| 13 | 介護職員の体制 | 職員である介護職員が有している資格 | 72 | 96 | 34 | 7 | 15 | 80.4% | 19.6% |
| 14 | 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師又は准看護師、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、社会福祉士、介護福祉以外の資格者の配置人数 | 資格数 | 35 | 113 | 54 | 9 | 13 | 70.1% | 29.9% |
| 15 | 実習生の受け入れ | 受け入れ実績 | 29 | 106 | 59 | 15 | 15 | 64.6% | 35.4% |
| 16-1 | 利用者がくつろげる環境の整備、事業所全体の雰囲気の快適性への配慮 | 食堂及び機能訓練室の面積 | 43 | 111 | 54 | 4 | 12 | 72.6% | 27.4% |
| 16-2 | | 環境評価アセスメント調査（※） | 28 | 135 | 41 | 3 | 17 | 78.7% | 21.3% |
| 17 | 状態像の維持改善を図るための機器等の充実 | 機能訓練用の機器類及びレクリエーション用の機器の種類 | 40 | 114 | 49 | 8 | 13 | 73.0% | 27.0% |
| 18 | 広報誌の定期的な発行 | 広報誌の発行状況 | 21 | 124 | 48 | 17 | 14 | 69.0% | 31.0% |
| 19 | 事業所情報開示に向けた取組 | 介護情報公表システムの更新状況 | 30 | 110 | 56 | 11 | 17 | 67.6% | 32.4% |
| 20-1 | 地域住民、家族等との連携 | 地域住民を対象とした介護技術教室等の開催回数 | 40 | 98 | 54 | 14 | 18 | 67.0% | 33.0% |
| 20-2 | | 地域住民の介護体験やボランティア等の受け入れ人数 | 52 | 106 | 45 | 6 | 15 | 75.6% | 24.4% |
| 20-3 | | 地域住民を受け入れている施設内行事の実施回数 | 45 | 111 | 43 | 9 | 16 | 75.0% | 25.0% |
| 21-1 | 利用者家族とのコミュニケーションの状況 | 利用者家族懇談会の開催 | 46 | 118 | 34 | 10 | 16 | 78.8% | 21.2% |
| 21-2 | | 家族への満足度調査 | 64 | 129 | 13 | 3 | 15 | 92.3% | 7.7% |
| 21-3 | | 家族への負担感調査（※） | 51 | 118 | 35 | 3 | 17 | 81.6% | 18.4% |

※調査表①には記載はないが、今後の評価項目の検討に必要な項目。

平成25年度　老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

【総合特区事業】通所介護サービスにおける質の評価に関する
調査研究事業報告書

平成26年3月発行
岡山市　新病院・保健福祉政策推進課

〒700－8544　岡山市北区大供一丁目1番1号
Tel：086－803－1638
Fax：086－803－1776